

総括

Closing remarks

北 潔*

Kiyoshi Kita

東京大学大学院医学系研究科・生物医化学教室

Department of Biomedical Chemistry, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo

北 潔(きた きよし)薬学博士

東京大学大学院医学系研究科・生物医化学教室 教授
長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科 教授・研究科長
DND/ 科学諮問委員会 委員

[主たる専門領域] 生化学, 寄生虫学



2013年12月にギニア南部で始まったエボラ出血熱はその拡大を防ぐことができず、死者は本年6月には1万1,000名を越え、まだ終息には至っていない。そしてこの「総括」をまとめている今日(2015年6月16日)現在、中東から韓国に拡大したMERS(中東呼吸器症候群)は19名の死者と150名を越える感染者を数え、留まることを知らない。日本においても70年間発生のなかったデング熱の患者が昨年夏に報告され、今年の夏もその発生が懸念されている。

先進国ではともすれば感染症はすでに過去の疾病と考えられがちであるが、これは大きな間違いである。3大感染症である結核、エイズ、マラリアはそれぞれ毎年100万人以上の死者を出し、しかも薬剤に耐性を持つ病原体の出現が常にわれわれを脅かしている。本シンポジウムでも紹介したようにこれらは「新興・再興感染症」としても知られているが、感染症はこれだけではない。新興感染症(emerging diseases)は、これまでに知られていなかった新しい感染症で限局された地域、あるいは国際的に公衆衛生上問題となる感染症であり、エイズ、エボラ出血熱、ヘリコバクターピ

ロリ菌などがある。また、再興感染症(re-emerging diseases)は既知の感染症で、すでに公衆衛生上問題とならない程度にまで患者数が減少し、その対策に成功していた感染症のうち、再び流行がみられ患者数が増加している感染症で、結核、コレラ、マラリアなどがあげられる。そして最近、感染症の分野で特にグローバルヘルスの観点から重視されるようになって来たのが、本シンポジウムでとりあげた「Neglected Tropical Diseases(NTDs)」である。これは「顧みられない熱帯病」と訳されているが、まだまだ一般の人々には言葉自体が理解されていない。

このような中で、感染症に関する2冊の優れた翻訳書が最近刊行された。その一つはロンドン大学衛生・熱帯医学大学院長で、元国連共同エイズ計画(UNAIDS)事務局長を務めたピーター・ピオット(Peter Piot)博士の著書「NO TIME TO LOSE」(慶應義塾大学出版会)である。エボラウイルスの発見者の一人でHIV感染症対策の最前線に立ち、国際政治に翻弄されつつもその拡大をくい止めた人物である。2013年にアフリカでの医学研究・医療活動の分野において顕著な功績を

* 長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科 (Nagasaki University School of Tropical Medicine and Global Health)

あげた者に贈られる「野口英世アフリカ賞」を受賞したピオット博士は、日本における感染症対策を高く評価し、これからの日本の役割に大いに期待している。

もう一冊はNTDsを対象とした医学雑誌であるPLoS NTDsの編集長で、ポリオワクチンで知られるセービンワクチン研究所の所長でもあるピーター・ホッテズ (Peter Hotez) 博士の「FORGOTTEN PEOPLE FORGOTTEN DISEASES (顧みられない熱帯病—グローバルヘルスへの挑戦—)」(東京大学出版会)である。本書はNTDsのそれぞれを一般の読者に判り易く解説し、なぜNTDsを排除しなくてはならないのかを、丁寧に説明している。そして、より良い世の中を創って行くために何をすべきかを語っている。最終章の「世界を修復する」はアメリカ国務省の科学特使として世界中を駆け巡っているホッテズ博士の心からのメッセージである。

日本の新薬開発能力は世界で第三位であり、また本シンポジウムでも紹介したように感染症領域での新薬の発見と開発において特に実力を発揮してきた。北里研究所の大村智博士の発見した抗フィラリア症薬、イベルメクチンはその代表例である。本日のシンポジウムでは従来の医薬品開発システムでは困難であったNTDsの治療薬開発が、日本のリーダーシップと産学官などのPDP (医薬品開発パートナーシップ) による新たな取り組みにより、大きく前進している現状をご理解いただけたことと思う。これからの日本の役割を考える時、日本薬学会年会においてシンポジウム「日本発 顧みられない熱帯病治療薬開発への挑戦」に会場一杯の方々が参加して下さったことに感謝するとともに、今後の我が国からの更なる発信とその成果に大いに期待するものである。(本記録集編集時の執筆)

* * *